

## 美術科学習指導案

科 目	授業学級	授業場所	使用教科書等
絵 画	1年8組 (美術科) 39名 (男子6名, 女子33名)	美術教室	美術の表現と技法

### 1 題 材 名 自画像を入れた構想画の制作 (油彩画)

#### 2 題材の目標

- (1) 主題を生成し、主題に沿った発想ができる。主題を追求するための資料を揃え、作品の構想を練ることができる。
- (2) 資料を効果的に活用し、作品制作に生かすことができる。
- (3) 主題に沿った自画像を描くことができる。
- (4) 自分の作品の構想について説明することができ、また友人の構想に対し、意見を述べるができる [アクティブ・ラーニング]。
- (5) 友人の意見を参考に試作を繰り返し、最終的に構想をまとめる過程をとおり、『発想や構想の能力』や『鑑賞の能力』を高め、新たな表現意図や価値感を得たことを実感的に理解させる。
- (6) 油彩画の基本的技法を踏まえながら、主題にあった表現方法を工夫することができる。
- (7) 制作途中でも指摘し合い、よりよき作品の完成を目指して制作することができる [アクティブ・ラーニング]。

#### 3 題材の評価規準

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
油彩画について関心をもつとともに、よりよい表現ができるよう工夫する。 友人の発表に関心をもって真剣に聞き、自分の意見を言うことができる。	主題に対し、表現に必要な資料を集め、参考にすることができる。 友人の発表を理解し、構想に生かすことができる。	構想を絵に表すことができる。 主題にあった表現方法を工夫することができる。	構想案について、考えを述べるができる。また、他人の作品に対し、意見を述べることができる。

#### 4 題材の指導計画 (全 18 時間)

- (1) 第1次・・・同じ高校生が描いた全国大会の作品を鑑賞し、構想に対しどう表現しているかを読み取らせ、構想に役立てる (1h)。
- (2) 第2次・・・構想のための「自画像」や「風景」をデッサンすることとともに、集めた画像や資料を写すことにより、デッサンの能力を伸ばす (4h)。
- (3) 第3次・・・資料を基に構想を練り一枚の構想画を作らせる (1h)。
- (4) 第4次・・・構想画について話し合い修正を加え決定する (2h)。。・・・本時(1/2)
- (5) 第5次・・・油彩画制作(8h)
- (6) 第6次・・・鑑賞(2h)

## 5 生徒観

本校は県内唯一の美術科を有する高校である。そのため、中学時代に既に美術を指向しており、美術に対する意識が高い。油彩画についても入学当初から制作意欲を強くもっている生徒が多く、これまで、県美展、女流美展など多くの展覧会に出品し、実績を積んできた。現在は、南日本美術展に向けて21名の生徒が100号に取り組んでいる。

## 6 題材観

絵画においては、油彩画の道具の基本的な使用法を学ばせるとともに、自分の構想を具体的に作品化していくことが大切である。本題材は、「自画像」と「構想画」の要素を併せもつ油彩画の制作を中心とする。主題を生成し、造形的な効果を生かし創造的に表現するとともに、ほかの生徒の構想や完成作品から作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り味わわせたい。自分の描きたい構想を、1枚の作品に仕上げていく過程の中では①構想を言語で表現すること、②友人の意見を参考にしながら試作を重ね、構想に取り入れていくことなどを通し、主体的・協働的に試行錯誤する課題解決法などについても学ばせる機会としたい。

## 7 指導観

本題材では、前述の構想を練り上げる場面等でアクティブ・ラーニングを積極的に取り入れ、①自分の構想を言語で表させ、②友人の意見を参考に、よりよい表現を目指すよう取り組ませたい。また、創造的な技能を働かせていく場面では、クロッキーやデッサンと、デジカメで捉えた画像や資料を基に、昨今みられるただ写真を忠実に写し取ろうとする表現行為から、資料としての写真や画像をどう取り入れ参考にしていくか考えさせ、作品表現のための活用法を学ばせたい。

これらの学習を、必要に応じて表現と鑑賞を相互に関連させ、より主体的・言語的に深く学ばせることで、生徒自身の中に新しい意味や価値をつくりだすことを目指し指導したい。

## 8 本時の実際

### (1) 本時の目標及び評価の観点

- ア 作品を作り上げるための構想の過程を具体的に説明することができる。
- イ 友人の作品について制作意図を理解し、自分の発想を加味した形で指摘することができる。
- ウ 友人の意見を参考に、試案を検討し次の試案を作成することができる。
- エ 最終的に構想をまとめる過程をとおし、「発想や構想の能力」や「鑑賞の能力」を高め、新たな表現意図や価値感を得たことを実感的に理解できる。
- オ 積極的に話し合いに参加することができる

### (2) 指導上の留意事項

#### ア 事前指導

- ・ あらかじめ、学習プリントを配布し、今回の題材の意図及び全体計画を理解させておく。
- ・ 構想画の試案を作らせる。

#### イ 導入段階

- ・ 本時の活動内容を理解させ、効率よく活動できるようにする。

ウ 展開段階

- ・ 班活動と、自由な討議活動の2段階で構想案をまとめる。
- ・ 班長を中心に、限られた時間で話し合いをさせる。
- ・ 構想について、発想の過程を追って説明させ、資料についても合わせて触れさせる。
- ・ 友人の発表を聞きながら自分の意見を発表できる。
- ・ 途中、友人の意見を参考にしながら、構想案作成に向けて制作する。

(3) 準備

- 教師：プロジェクタ，オーバーヘッドカメラ
- 生徒：自画像，構想のための資料，デジカメ，筆記用具

(4) 本時の展開

学習過程	生徒の学習活動	指導上の留意点(※)と評価方法(◇)
導入 (5分)	既習内容の確認をするとともに、本時の学習のねらいを理解する。 【学習のねらい】 「構想画の試案について、友人の意見を取り入れ、構想案を仕上げよう」	○ 事前に学習プリント等を配布しておく。 ○ 前時の振り返り ○ 主題を確認させ、本時の学習のねらいについて説明する。 ※ この授業を通して、身につけてほしい能力について示す。 ◇ 意見を聞く姿勢 [関心, 理解]
展開1 (20分)	1 班で発表し合う (試案の修正)。 [アクティブ・ラーニング型活動 I] (1) 発想の過程を追って構想に至った経緯を説明し、資料についても合わせて触れる。資料を示しながら構想画の案について説明をし、それに対して意見を述べ合う。 (2) 友人の発表に対し、自分ならどうするか意見を出し合う。  (3) 方向性が決まった生徒は、話し合いを踏まえ試案を修正する。	6人グループ(3)と7人グループ(3)の6グループで、1人3分ほどで話し合わせる。 ○ 班長を中心に、1人1人説明をし、それに対して意見を述べ合う。 ○ 友人の意見を参考に、よりよい構想にするために、共有化する。 ◇ 効果的発表の態度 [表現] ◇ 他者の意見を聞く姿勢 [関心, 理解] ◇ 自分の考えを述べる [表現, 思考]  ○ 話し合った内容を参考に試案2を完成する。 ◇ 構想を書き上げる能力 [表現]

<p>展開 2 (15分)</p>	<p>2 自由に相手を選び話し合う（構想案の作成）。 [アクティブ・ラーニング型活動Ⅱ]</p> <p>(1) 班活動を踏まえ、修正案を基に自由に相手を選び意見交換する。 ア 自分の試案について班活動で何を学びどう変わったかを説明する。 イ 友人から意見をもらおうと共に、友人の作品についても意見を述べる。</p> <p>(2) 最終的に構想案を完成させる。</p>	<p>○ 班を解き、課題を解決するために必要な相手を自由に選ばせ、より深まった意見交換ができるようにする。</p> <p>○ 場所も特定せず自由な雰囲気話し合わせる（教室外でもいいことを告げる）。</p> <p>◇ 積極的に相手を探し意見を述べる姿勢 [関心, 表現]</p> <p>◇ 構想を書き上げる能力 [表現]</p>
<p>まとめ (10分)</p>	<p>3 鑑賞活動</p> <p>(1) 活動の結果を発表する。 試案～構想案に至った経過を説明する。 ア 自分の発想について。 イ 友人の指摘でどう変わったか。</p> <p>(2) 教師の説明を聞き、本時の学習の成果を理解する。</p> <p>4 次時の予告を聞く。</p>	<p>○ 代表を選び、発表させる（進行も行わせる）。</p> <p>○ オーバーヘッドカメラを用いて説明する。</p> <p>◇ 意欲的に意見を聞く姿勢 [関心, 思考]</p> <p>◇ 他者の意見を聞く姿勢 [関心, 理解]</p> <p>○ 「1枚の作品を作り上げるためには、発想力と共に、さまざまな手段を用いた構想の練り上げが大切であること」を発問等により生徒自身に気付かせる。</p> <p>また、「資料の大切さ」にも触れ、まとめとして、「多くの大切さを学び、結果として特に『発想や構想の能力』と『鑑賞の能力』が高まり新たな表現意図や価値感を得たこと」を実感的に理解させる。</p> <p>○ 「本時の活動を基に、最終的に1枚の構想画に仕上げる」ことを伝える。</p>